

1 自己評価書

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
<b>教育目標</b> 生き生き活動する立間っ子の育成						
<b>基本方針</b> 1 個に応じたきめ細かな指導を通して、確かな学力の定着と向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を進める。 2 人権尊重の精神を培い、思いやりと活気に満ちた安全・安心な教育環境を整える。 3 進取・創造の精神に象徴される「立間の心」を継承し、様々なことに挑戦するたくましい実践力の育成に努める。 4 家庭や地域と連携・協働し、地域とともにある学校づくりに努める。						
<b>本年度重点目標</b> 1 個に応じた指導と確かな学力の定着と向上を図る。 2 安全・安心な教育環境を整備する。 3 体験を通して、たくましい実践力を育成する。 4 地域と協働する学校づくりに努める。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	C C	C	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B	C	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート C ・児童生徒アンケート B	C	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B	C	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B	C	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート A	C	C
	(成果○と課題●) ○児童同士の学び合いを意識した授業が多くでき、考えを交流する力が少しずつ身に付いてきている。 ○みきゃん通帳入力と読書マラソンにより、読書意欲が向上した。特に低学年では、文字や平仮名を読むことへの意欲の高まりが見られた。 ○e-ライブラリやEILSなどのデジタル教材を適宜利用し、基礎的事項の定着に努めた。 ●学力の個人差が大きく、特に低学年の基礎学力の定着に課題が見られる。 ●読書習慣が身に付いていない児童が多い。 ●自分の意見を述べたり、友達の意見に付け加えたりしながら学習理解を深めるという面では、しっかりとほつきりとした意見・考えを述べられる児童に限られている。話し合い、練り合いの時間の確保が必要である。 ●問題の読み飛ばしや読み漏れ、思い込みで解く児童が多い。課題をしっかりと把握するためにも、読解力を高める必要がある。					
	(改善策等☆) ☆ミニテスト等を活用したスモールステップでの見届けと指導の充実や、平仮名や漢字等の練習やドリル教材の反復学習、「なぜ」「どうして」を大切に授業づくりや、友達と意見を交流し合い、反応し合う練り合い学習活動、聞かれていることに線を引く等の学習訓練など、基礎学力の定着と向上を図るための授業改善に取り組む。 ☆ゲーム要素を取り入れた読書活動や読み聞かせボランティア、図書委員会の活動の充実など、読書意欲向上のための手立てを工夫する。 ☆家庭と連携した家庭学習が進められるよう啓発をしていく。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	B
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識を支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート C ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B	B	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート C ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート C	B	
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート C ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B	B	B
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート C ・児童アンケート B	C	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート C ・児童アンケート A	C	
(成果○と課題●) ○普段の職員間の会話の中で、気になる児童や児童の様子などを伝え合うことができていた。 ○子供達同士が良さを見付け合い、伝え合う活動が継続できた。 ○靴の揃え方がきれいになる等、基本的な学校生活習慣の改善が見られた。 ●縦割り班での清掃活動は、上級生が下級生に動きを見せる場としてよいと思うが、清掃活動以外の場面での上級生と下級生の関わりがあまり目に見えない。 ●遊びの中でトラブルが増えてきたように感じる。 ●集団行動が身に付かず、落ち着かない児童がいたり、スカートの丈が短い女子児童がいたりするので、一人一人にしっかりと関わる必要がある。 ●仲間意識を育て、互いを認め合える人間関係づくりへの取組をもう少し行う必要がある。 ●まだ十分ではないが、決まった場所での挨拶や大人への挨拶はできてきている。しかし、児童同士の挨拶があまりできていない。また、目を見て挨拶することができていない児童がいる。						
(改善策等☆) ☆児童間のトラブル等への対応をよりしっかりとしたものにするため、話を聞いて一緒に考える時間を設定したり、家庭との連携強化を図ったりする。また、トラブルの未然防止の視点に立った学級経営や、集団攻撃の形態とならないような学級づくりを心掛け、複数教員の目による見守りや支援、些細なことで学級担任や生徒指導主事、管理職等へ伝える報告・連絡・相談の徹底を図る等、組織的な対応ができる体制強化を進める。 ☆「学校のきまり」の指導の徹底と内容の改善を図る。 ☆特別活動(縦割り班活動、学級活動、集会等)の充実を図り、今以上に一人一人に役割や責任を与えて活動させる。 ☆挨拶することの大切さや目を見て挨拶をすることの価値付け、呼び掛け等を行うとともに、教師自ら率先して、笑顔で、大きな声で、明るく挨拶をする。						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <b>教職員の意識改革</b> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣れにとられることなく取り組んだ。	・教師アンケート	C	C
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>成果○と課題●</p> <p>○分からないことを丁寧に教えてくださる先生方が多く、相談しやすく、助け合える、とても働きやすい環境の職場だと感じる。          ○やりがいという面では、それぞれの校務分掌に、各先生方がしっかりと取り組まれている。          ○ミライムなどを使った連絡は、無理に時間を割かなくていいので良いと思う。          ○支援員さんの計画票を作成したことで、動きが分かりやすくなった。          ○ちょこボラがありがたい。</p> <p>●地域との関わりを大切にすることと行事などの内容の精選の兼ね合いをもっと考える必要がある。          ●コロナ禍から以前の形に戻りつつある中、文書・記録にはないため、以前から知っている方に尋ねないと分からないことがたくさんある。          ●環境整備の負担が大きい(時間をとられる)          ●放課後の課外活動の時間(特に水泳の時間)が長いのではないか。          ●勤務時間がまだまだ長いと思う。          ●働き方改革に向けた具体的取組を十分に示すことができていない。</p> <p>(改善策等☆)</p> <p>☆分からないことや疑問に思ったことは早めに尋ねるように気を付ける。          ☆ちょこボラ以外で、草刈り、剪定等の専門の方を校費で雇っていただきたい。          ☆すべての行事をコロナ前と同じように復活させる必要はなく、より良い方向に改善していくべきだと思う。          ☆放課後の水泳や陸上の練習時などは、校時の工夫により、もう少し終了時刻を早めることができないかを検討する。          ☆職員の出出時の決め事は、するならば、きちんと指導していただきたい。          ☆校務支援システムやミライム等のICT活用を一層進め、省略できる部分を増やす。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B C B	
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	
③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B C B	B	
<p>成果○と課題●</p> <p>○ホームページはとても良いと思う。          ○ちょこボラや読み聞かせなど、学校と地域がつながる活動を児童が認識することがよかった。          ○学年通信を発行して子供たちの様子を伝えることに努めた。連絡ノートや電話を活用しての家庭との連絡も密にとるようにした。          ○第2回の学校運営協議会でグループ別熟議を行った。いろいろなアイデアが出てきて、活用できそうな意見もあった。          ●保護者の方からの相談が懇談会の機会まで連絡しただけなかった。          ●地域との連携を進めるために、地域に向いたり、地域の方を招いたりして学習・活動する場面が1学期は少なかったように感じる。</p> <p>(改善策等☆)</p> <p>☆通信に返信欄を設けるような、一方的でないものも発行していきたい。          ☆地域との連携を進めるために、地域に向いたり、地域の方を招いたりして学習・活動する場を充実させていく。          ☆学校運営協議会にまだ全職員が参加できていないので、3回目、4回目を通じて、1回は参加してもらえようとする。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満